DMI 国際ろう者支援会 日本

2018 年夏号

新しいスポンサーのみなさまを歓迎します

DMIのエグゼクティブディレクター、ネヴィル・ミュアー師と夫人、そして息子のイアンが4月に来日し、多くの誠実な支援者の方々と交わることができました。また、子どものスポンサーになってくださった方、ニュースレターを申し込まれた方、祈りの輪に加わってくださる方が、新たに起されました。みなさまに感謝します。今回は、DMIに関わっているふたりの日本人の方のニュースとレバノンで開かれたシリア人のろう者のキャンプについてご報告します。

DMI日本の4月の理事会は久しぶりの再会で、まるで同窓会のようでした。ミュアー家の三人、米国から元理事のストーラー夫妻、元会計係の福沢さんも加わって、にぎやかでした。

フィリピンの二つの島でのキャンプ

JDBF佐世保ローア・バプテスト教会・湊崎 眞砂

私たち夫婦は4月17日（火）から26日（木）にかけてフィリピンの二つの島に於いてDMI キャンプ及び教職者ワークショップにて、ご奉仕させて頂きました。

1. ビコル

レガスピ空港に到着する前、 富士山のような美しいマヨン山が見え、空港にてアーネル・ベニテス師夫妻と息子たち（コーダ）が出迎えて下さいました。

先ずは4月17日（火）から19日（木）にかけてビコル半島の南のアルバイ州タバコシティにあるエミランド・リゾート・ビーチに於いてDMIビコルろう者キャンプが開催されました。そこで「神の備え」というテーマで主のみことばを取次がせていただきました。

そのキャンプには、約７５名の方々が参加してくださいました。教職者たち以外、ほとんどの方々には初対面でした。参加者の大半は若者であり、将来を担うことができると嬉しい期待を持つことができ、とても感謝でした。キャンプ期間の毎朝４時頃スタッフの方々が、食事のために市場へトライシクルで豚肉、鶏肉、魚、野菜などを買いに行っているということでした。理由を尋ねると、キャンプに参加された方々が、食中毒を起こさないように、安全のために新鮮な豚肉、鶏肉、野菜などを食べていただきたいという配慮をしていただきました。キャンプ場の台所には冷蔵庫やガスコンロなどがなく、大変不便だと思いましたが、スタッフの方々の奉仕は大変素晴らしいものでした。スタッフの皆様が、キャンプ参加者が健康で、喜んで主のみことばを学ぶことができるようにと裏方においても懸命に主と主の兄弟姉妹のためにご奉仕してくださっていました。

礼拝以外は工作、劇などもあり、子供から青年

までもともに楽しく交わりをしていました。聖歌隊は賛美をささげた後に、聖歌隊メンバー一人一人が選曲し、また賛美をささげていました。彼らは賛美の歌詞をしっかりと覚えてささげている姿に感心しました。私は救いの福音を語った後に、ろう者の４名の方がイエス様を信じる告白をしました。ハレルヤ！聖霊なる神様の助けに感謝します。

最終の日にフィリピンろう伝道師であるベニテス師によるバプテスマ式が主の祝福の中に行われました。すでに主に従う決心された４名が海でバプテスマ（浸礼）を受けました。ベニテス師は初めてバプテスマを授けたそうです。彼にとって良い経験になったと思います。

解散後に、ジプニーに乗ってリガオのフィッシャーメン・オブ・クライスト・学習センターというろう学校へ向かいました。４月２０日（金）から２１日（土）にかけて教職者ワークショップを開催されました。ビコル地方には牧師がいませんので、ほとんどが伝道師です。役員たちにも参加して頂きました。私は、２０日（金）の朝８時から夕方５時までの８時間と２１日（土）の午前８時から午後１２時までの４時間、ワークショップで「終末論」を講義させて頂きました。参加者は、とても熱心に聞きながらノートを取っている伝道師たちや役員たちの姿勢を見てとても嬉しく思いました。不思議なことは年を取っている私が疲れることもなく、倒れることもなかったことです。主が私の健康と奉仕を守り支えて下さいました。

私たちは富士山のような美しいマヨン山の中腹までレンタカーで登って行きました。この時も主にある兄弟姉妹たちと共に交わりが出来て大変楽しかったです。その翌日（２２日）は主日礼拝をフィッシャーメン・オブ・クライスト・学習センターのホールにて行いました。私は礼拝でメッセージの奉仕させていただきました。８名のろう者の方々はメッセージに答えてイエス様を救い主として信じる信仰を告白しました。ただ「信じる」と告白するだけではなく、主イエス様に従うようにと指導しました。彼らがこれから霊的に成長するようにお祈り下さい。

2. ネグロスろう者キャンプ

２３日（月）ネグロス島のバコロド空港へ向かいました。アルバート・メーカド牧師が出迎えられ、師の家まで私たちを連れて下さいました。２４日（火）から２６日（木）にかけてDMIネグロスろう者キャンプをバコロド市郊外にある聖書学校に於いて開催しました。そのキャンプの珍しいテーマは「強い：戦い、終える、信仰」でした。「私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。」（Ⅱテモテ４：７）。

６５名の参加者がありました。私は、そこで４回のメッセージをさせていただきました。ネグロスろう者キャンプでもビコルろう者キャンプのような劇、賛美、工作などをしたりして楽しく過ごしました。

メーカド牧師夫妻は、翌日、綺麗な川でバプテスマ式を行って、四人の兄姉たちはバプテスマを受けました。解散後にフィリピンろう者たちがボロボロのバスに乗って帰るのを見て切なさを感じました。でもフィリピンろう者たちは貧しくても常に笑顔で明るい人たちだと教えられました。

二つの島でのキャンプを本当に祝福して下さった神様の素晴らしい御業をほめたたえます。私の健康と霊性と奉仕のためにお祈りして下さっている方々のことを覚えて感謝します。ビコルろう者キャンプのために韓国の春川ろう者教会と私たちの団体JDBFとその姉妹であるDBBCから過分な献金を頂きました。春川教会とJDBFとDBBC各教会の上に主からの豊かな報いがありますようにお祈りしましょう。

イースターの日の35周年記念礼拝

長澤久美子（韓国）

日本のDMIサポートの皆様，韓国よりご挨拶致します。この度は日本のDMI担当理事長のｱﾚｰﾝ・ﾏﾄﾞﾚさんよりのこの原稿を依頼されましたので、ここで喜んで証させて頂きます。

今年のイースターは私共の仕える江華(カンファ)インマヌエルろう者教会の創立35周年記念の日。ここ韓国では日本よりもこう言う記念行事を良く行いますが、今回はDMIのミュアー先生と奥さんをお招きしての特別記念礼拝となりました。また今年は主人の江華ろう者教会での奉仕生活30年も兼ねて、祝って頂き更なる喜びが！

江華島にある私達の教会は北朝鮮からも近く，漢江の川を挟んで高台にあるこちらから、2.6km程先の北側を眺める事が出来ます。ですから”神の時”が来たらここからも北の民にも道が開かれ，福音が伝えられ北(朝鮮)のろう者にまで行き渡るでしょう。そして、その先、世界の隅々にまでも！祈りつつ、聖霊の力で。

さて今回は私たちの教会の家族を中心に記念会を行いました。そしてこのイースターの日に主の復活を共に祝い，また主の晩餐式を!司式はミュアー師，パンとぶどう酒は主人と呉セファン牧師(豪州から)が配り，バプテスマを受けた信者さん達と共に主の十字架の死を記念してのとても厳かな式でした。主が再び来られるまで主の死の意味をしっかり告げ知らせたいものです。ミュアー先生を通しての礼拝でのメッセージはロマ書5:18~19より“一人の人の影響力”と題しとても触発され宣教への再挑戦となりましたが，その後のこの主の晩餐式もまた主の力を頂けた恵みの時でした。

もう一つの大きな事がありました。それはこの二週間前の3月16日に主人の母が召された事です。96歳でした。実はこの母の願いと祈りでミュアー先生ご夫妻が仁川の母の教会でろう者の伝道を始められたのです。

五人のうち三人の子が耳が聞こえず，どうしてもその子達にイエス様を伝えたくて、祈るうちに独身の時から主人の通うろう者学校をサポートしていたミュアー宣教師に願い、今は世界20カ国に拡がっていることは，これは確かに主が導きでした。を見る時“一人の人の影響力”がここにもあった事を証します。大の親孝行の主人は最後まで母を大事にしました。私も何時も感心していました。神様の祝福があると信じます。イエス様の元で母は今最高に幸せなることを確信し，天国での主に在る再会を堅く信じて止みません。そして更なる宣教と働きに私達夫婦と家族は献身を新たにさせられております。

どうぞ私達と教会の為にお祈りください。皆さまの上に主の恵みと祝福があります様に！

レバノンで開かれたシリア人のろう者のためのキャンプ

ミュアー師の報告：

私の最も最近の冒険は、レバノンのベイルートに入り、シリア人のろう者のとリーダーのためのキャンプに参加したことです。これは、私たちみんなにとって、本当に特別な祝福のときでした。ノルウェー人のグナール師は、天の御父の心について、また、父なる神の私たち一人ひとりに対する愛について、聖書から語りました。これは７年に渡る戦争で苦しんでいるシリアのろう者たちへの尊いメッセージになりました。シリアのダマスカスにあるDMIのろう者教会の多くの教会員がバスに乗って４日間のキャンプに参加しました。この人たちの多くは、今までにシリア国外に出たことのない人たちです。

「オープン・ドアー」という名前の団体が、シリアの参加者の交通費を含むキャンプの費用を提供してくださり、私たちは非常に感謝しています。　航空券は含まれませんが、グナールと私の滞在費も負担してくださいました。「オープン・ドアー」という団体は、冷戦時代、聖書を禁じられていた国々にこっそり持ち込んでいたことで有名です。彼らは今でも、多くの人たちを助け、その人たちの祝福となっています。

シリア人のみなさんは長い旅を経て来ました。道中は国境を超えることや警察の検問などで大変でした。ほとんど誰も国外に出たことはありませんから、この旅は冒険だったに違いありません。戦争や爆撃のない場所にいられるのは良いことでした。しかし、最近、ダマスカスの状況は改善しています。今後もそういう状態が続くことを願うばかりです。ダマスカス以外の場所のことはよく分かりません。

Deaf Ministries International

DMI 日本主部

Web: http://japan.deafmin.org
Email: info@japan.deafmin.org

Tel/Fax:
（代表：マドレ）075-871-8562
（スポンサーシップ：マイケルセン）090-4307-0717
（会計：マーシャル）06-4980-5414

郵便（大阪インターナショナルチャーチ）：
〒540-0004 中央区玉造 2-26-47-407

DMI 国際本部（オーストラリア）

Web: http://deafmin.org
Email: muir@deafmin.org

P.O. Box 395 Beaconsfield Vic. 3807 Australia

Tel: +61-3-5940-5430
Fax: +61-3-5940-5432

Welcome to New Sponsors

In April we were privileged to have the Executive Director of DMI, Neville Muir, and his wife and son Ian, spend time with us in Japan. It was good to meet up with so many of you who faithfully support the work of DMI, and also meet new people who have started to sponsor a child or receive this newsletter and pray for the work. Thank you, one and all. This time I would like to give you news from two Japanese who are involved in DMI work, and also to tell you about a camp in Lebanon for the Syrian Deaf.

The DMI Japan board meeting in April was more like a reunion, as we were joined by Neville, Lill, and Ian Muir, Ron and Joan Stoller (retired board members visiting from USA), and Orlaug Fukuzawa (former treasurer).

Camping on Two Islands in the Philippines

Masago Minatozaki,
JDBF Sasebo Deaf Baptist Church

April 17-26 we served as a couple on two islands in the Philippines, at DMI camps and a teacher's workshop.

1. Bicol

Before landing at Legazpi Airport, we saw beautiful Mount Mayon, resembling Mount Fuji. At the airport, Mr. and Mrs. Arnell Benitez (Deaf) and their hearing sons welcomed us.

April 17-19 we held the DMI Bicol Deaf camp at Emiland Resort Beach at Tobacco City in Albay Province in the south of the Bicol peninsula. I shared the word of the Lord with the theme, "The Preparation of God".

About 75 people participated in the camp. Except for the teachers, it was my first meeting with most of the people. Most of them were young people, and I was delighted to see that they would be able to carry on in the future.

During the camp, every morning at about 4 a.m. the staff would go to the town market by tricycle to buy pork, chicken, and vegetables. When I asked why, I was told it was out of concern that the participants have fresh produce to avoid food poisoning. The camp kitchen had no refrigerator or cooking stove, so it was quite a challenge, but they did a great job. All the staff worked hard behind the scenes to enable the participants to be healthy and study God's word with joy.

Besides worship, there were crafts, skits, etc., and kids of all ages had fun together. After the choir praise program, each choir member chose songs and sang praise. I was impressed by their memory of the lyrics. After I shared the gospel, four Deaf people confessed their belief in Jesus. Hallelujah! I give thanks for the help of the Holy Spirit.

On the last day, Filipino Deaf evangelist Benitez conducted a baptism in the sea for the four new believers. It was Mr. Benitez's first time to perform a baptism, so I'm sure it was a great experience for him.

After the camp was over, we took a jeepney to the Fishermen of Christ Learning Center in Ligao, where we held a teacher's workshop Friday and Saturday, April 20-21. There are no pastors in the Bicol region, so most of the participants were evangelists. The board members also participated. I lectured on "Eschatology" for 8 hours (8 am to 5 pm) on Friday and for 4 hours (8 am to 12 pm) on Saturday. I was very happy to see the participants listening enthusiastically and taking notes. And even though I am older, I never got tired - the Lord supported and protected me.

On Sunday the 22nd, we celebrated worship at Fisherman of Christ's hall, and I was privileged to give the message. Eight Deaf people responded to the message by confessing faith in Jesus as their Savior and being led to follow Him. Please pray for their spiritual growth.

2. Negros Deaf Camp

On Monday the 23rd, we flew to Bacolod airport on Negros Island. Pastor Albert Mercado met us and took us to his house. The Negros Deaf Camp was held April 24-26 at a seminary on the outskirts of Bacolod City. The theme of the camp was "Strong: Fight, Finish, Faith", based on 2 Timothy 4:7: "I have fought the good fight, I have finished the race, I have kept the

faith." 65 people participated in the camp, and I gave four messages. Like Bicol, this camp also enjoyed skits, praise, crafts, etc.

The next day, Pastor and Mrs. Mercado conducted a baptism at a beautiful river, and four Christian brothers and sisters were baptized. After it was over, it was heart-wrenching to watch the Filipino Deaf ride home in a terribly dilapidated bus. But even though they are poor, they have smiles and a bright outlook.

Thanks to God for His wonderful work in blessing the camps on these two islands. And thank you for your prayers for my health, spirit, and service. Chuncheon Deaf Church in Korea, my denomination JDBF, and sister church DBBC gave a generous offering to the Bicol Deaf Camp. May they receive a bountiful blessing from the Lord.

35th Anniversary Worship Service on Easter

Kumiko Nagasawa (Korea)

Greetings from Korea to all of the DMI supporters in Japan! I am happy to share this at the request of Alayne Madore, chairman of DMI Japan.

Easter this year was the 35th anniversary of the Gangwa Immanuel Deaf Church where we serve. Here in Korea such anniversaries are celebrated even more than in Japan, but this year we invited the Muirs to join in, so it was extra special.

Our church is located on high ground on Ganghwa Island. It is close to North Korea, which can be seen across the 2.6 km-wide Han River. So, in God's time, the way will be open from here to North Korea, and we will spread the gospel to the Deaf people there, and on to every corner of the world as well! We continue to pray for that, by the power of the Holy Spirit.

On Easter this year we had a memorial service for our church family, celebrated the resurrection of the Lord, and had communion together. Pastor Muir oversaw the ceremony and distributed the bread and wine to all of the baptized believers, together with Pastor Oh Sei Hwang (from Australia). It was a very solemn commemoration of Jesus' death on the cross. We desire to proclaim the meaning of the Lord's death until He comes again. The worship message by Pastor Muir, titled "The Influence of One Person," was based on Romans 5:18-19. The message was a very inspiring challenge to renew our mission, and the communion ceremony afterward was an empowering time of grace.

In additional big news, my husband's mother, at 96 years, was called to heaven two weeks prior, on March 16th. It was actually by her prayers and at her request that the Muirs began to evangelize the Deaf in her church in Incheon.

Three out of five kids could not hear, and she wanted to somehow tell them about Jesus, so she prayed and asked Missionary Muir, who had been supporting the Deaf school her husband went to even while still single. Now it is certain that the Lord has guided these things; this work has spread to 20 countries around the world. I testify that the "influence of one person" can certainly be seen by this. My husband has great filial piety, and he cherished his mother to the end. I was constantly impressed. I believe this has God's blessing. I am confident that now, with Jesus, his mother has the greatest happiness, and I will not stop believing that we will be reunited in heaven in the Lord. And, as husband and wife, with our family, we have a renewed dedication to further missions and work.

Please pray for us and our church. May the Lord's grace and blessings be on you!

Lebanon Camp for Syrian Deaf

Neville writes:

My most recent adventure was to Beirut in Lebanon for a conference with our Syrian Deaf church and leaders. It was a very special time of blessing for us all. Gunnar from Norway spoke on the Father's heart and the love God the Father has for each of us. This was very special to our Syrian Deaf who have suffered through seven years of war. A large section of our church in Damascus came by bus for the four-day gathering, Most had never been out of Syria before.

We are so thankful to an organization called Open Doors who paid for the gathering here, including transport to and from Syria. They covered Gunnar's and my expenses too (minus the airfares)! Open Doors is of Bible smuggling fame from way back during the Cold War. They are still being a blessing and help to many.

The Syrians had had a long journey too, made more difficult by police checks along the route and a time consuming border crossing. Almost none had been out of Syria, so this was an adventure to be sure. Good to be in a place where there is no war and bombings. Apparently, though, life in Damascus has been been much better in recent days, so we can only hope that it will stay that way for a while. Not so sure about the rest of Syria.